

審判者として下られる神

ミカ書 1 章

すべての国々の民よ。聞け。地と、それに満ちるものよ。耳を傾けよ。神である主は、あなたがたのうちで証人となり、主はその聖なる宮から来て証人となる。(2/新改訳)

預言者ミカはホセア、イザヤなどと同時代の預言者です。当時、北王国イスラエルでは王たちが次々と暗殺されて政権が交代し、南王国ユダにおいては名君ウジヤが死んで国は力を失い、アッスリヤによる侵略という危機が迫っていた時代でした。

そのような危機が迫る中、ミカは主の言葉を人々に語りました。迫り来るアッスリヤの災いは神の審判の表れであると伝えたのです。偶像礼拝に陥っている彼らの罪のゆえに、主はアッスリヤ軍を用いて審きを行おうとしておられました。ここでは主自ら証人として法廷に出廷されると語られます。「神である主は、あなたがたのうちで証人となり、主はその聖なる宮から来て証人となる」。このとき主は、神の民を弁護するための証人として来られるではありません。逆に彼らの罪を明らかにするための証人となられるということです。なんと悲しいことでしょう。主が神の民に有罪を宣告するための証人になられるとは。それほどまでに、彼らの罪はもはや言い逃れできないことをミカは告げています。彼らに残されていた道は、ただ罪を悔い改めるだけでした。

主イエスが再び地上においてになるとき、わたしたちを罪に定める審き主として迎えるのではなく、救いを完成してくださる救い主として喜びをもってお迎えしたいものです。